

住民育てた桜あでやか

植えられた数だけ物語があるとも言われる桜。今年も市内各地で、住民が丹精した木が花を咲かせている。新型コロナ

ウイルス禍で例年になく重い空気に包まれた春だが、花の季節は変わらず巡ってきた。

地域のシンボル満開

玉原・由藤さん植樹 ソメイヨシノ

玉原地区の住民が志 なくなってきたが、地域 高齢化が進む中、ここで池近くの公園に植え、 にどって自慢の桜がまた 暮らす人たちに、いつま半世紀にわたり世話し 昔みたいなきやかな場 でも活力をもたらす存在 てきたソメイヨシノが 所になってほしい」と由 藤さんほほえむ。少子 であることを願って (内田貴大)

見事な咲きぶりの一本 桜は地域のシンボルの 存在。この春も、見る 人から「ええ桜じゃ」と 声が上がっている。

近くに住む由藤茂さ ん(88)が55年ほど前に 植樹した。当時、地区 は新興の住宅団地とし て整備が進んでいた 頃。元気に遊ぶ子ども たちであふれる公園 に、「日陰をつくって あげたい」と植えたとい う。以来、町内会で 水やりなどの管理を続 けた。

高さ約10歳、目通り 周囲は約1歳。黒くど つしりとした幹から大 きく広がった枝を包み 込むように、薄桃色の 花が咲く。

「最近はずっと少



満開を迎えた由藤さんのソメイヨシノ

潮風に揺れる80本

「宇野港の会」丹精 ヤエベニオオシマ

宇野港では、港を囲む 足を止めて見入っ ている。今週末には満開とな

年並みの5日に開花し た。並木に沿って花を 眺めながらお年寄りが 散策し、スマートフォンで撮影を 楽しむ。

のヤエベニオオシマが見 入る。淡紅色の八重が潮 桜の中でも塩害に強い 風に揺れ、行き交う人が とされる品種。今年は例

玉野商工会議所や市 民有志らでつくる「宇 野港桜の会」が港を桜 の名所にしようと、2 007年に植樹。水や りや施肥といった世話 を続けている。下校途 中に立ち寄った玉野高 1年西村帆乃さん(15) は「きれいな花。街の 大きな魅力になってい ると思う」と見上げた。



小林文夫会長(83)は 「宇野」は「新型コロナ ウイルスの感染拡大で 気分は暗くなりがちだ が、咲き誇る花を見て 元気を出してほしい」と 呼び掛ける。

宇野港周辺で咲き誇るヤエベニオオシマ

(内田貴大)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。